
頑張れマイナちゃん 続×4

マドハンド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

頑張れマイナちゃん 続×4

【Nコード】

N8791X

【作者名】

マドハンド

【あらすじ】

マイナちゃんの奮闘記

瞼の上からでも眼に射し込んでくる強い光に、マイナは強制的に意識を覚醒させられる。

うつすらと目を開くと、あまりの光の強さにマイナは目を窄めた。

「目が覚めたか……」

唐突に聞こえてきたその声に、マイナは視線を向ける。

そこには、統一された服装と覆面で身を装う男達がいた。

その男達を認識すると、続けてマイナは自分が手術台らしきものの上で寝かされていたことを理解する。天井の方向から降り注ぐ強い光は、その照明灯の類のものだろう。

マイナの全身は今、サラシでグルグル巻きの状態にされていた。

自分をこんな風にした張本人であろう男達に、マイナは訝しげに質問する。

「……ここは何処ですか？ 私は一体？」

「我々は正義の組織、匿名のマイナース。ここは私達のアジトであり、お前は我々の改造手術によりサイボーグとして蘇ったのだ」

「マジですか」

「ちなみに君はプロトタイプだ」

男のその言葉に、マイナは興奮して手術台の上に立ち上がった。

その勢いで、頭の後ろの高い位置で括った髪が躍動する。

「うおおおおおおおお、燃えてきましたよ！ いつの時代も主役はプロトタイプと相場は決まっています！ 量産型をギッタンギッタンにしてやるです！」

マイナが眉毛をVの字にしてやる気ゲージを上昇させると、男は満足そうに頷く。

「ふふふ……喜んでもらえて何よりだ。では、不眠不休で書き続けるがよい」

「不眠不休ですか！？ 人使いが荒い正義の組織ですね……」

「安心するがよい。君の動力には縮退炉が搭載されているのだ。君が疲れるなどというのはありえない」

男から飛び出したとんでもない単語に、マイナは驚愕の表情を見せた。

「縮退炉！？ 人類の科学はもうそこまで発達していたのですか！？」

「まだ試作段階だ。プロトタイプだと言っただろう」

「それって、大丈夫なんですか？」

「君が死^{エタラ}ない限りは大丈夫だ」

男のその言い回しに、マイナは妙な不安を感じる。

だからマイナは、恐る恐る浮かんだ疑問の答えを求めた。

「私が死^{エタラ}ぬとどうなるんですか？」

「縮退炉が爆発するから世界が滅^{エタラ}ぶ。だから絶対に死^{エタラ}なないように」

「え、爆発するんですか！？ というか、何気に世界の命運を握ってますよ私！」

「ちなみに自爆スイッチも付いているぞ」

「貴方たち、本当に正義の組織なのですか！？」

「もちろんだ。誰が何と言おうと我々が正義だ。間違っているのは世界のほうだ」

「めちやくちや悪役の台詞じゃないですか！ 多分、全人類に多数決させたら圧倒的多数で悪認定されますよ！？」

「ええい、ごちゃごちゃうるさい！ とにかく書くのだ！」

男達が、強引にマイナにパソコンを押しつける。

マイナはその要求に、渋々ながら従った。

「ふん、仕方ないですね。 少し待っているといいです」

強制されると全然やる気が出ないマイナは、お題の短編を手早く書いて投稿画面に入った。

読み直してもいらないどころか何を書いたかさえ覚えていない作品だった、とりあえずは投稿しておけば男は納得するだろう。そう思ったのである。

「ちなみに初投稿時に日間ランキングに載らなかったら、自爆スイッチが起動するよになっている。心して書くように」
「……………え？」

カチリとマウスの左クリック音が鳴り、マイナの短編が投稿されてしまう。

明日が人類最後の日になりそうであった。

（後書き）

「という夢を見たのです」

「・・・へえ？」

「だから、はやくポイントを入れるです！　じゃないと世界が滅びますよ！　間に合わなくなっても知らんぞです」

「それは大変ねえ」

「ギブ・ミー・ポイント！ギブ・ミー・ポイント！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8791x/>

頑張れマイナちゃん 続×4

2011年11月17日17時43分発行